

# 蜂用防護服使用の手引き

## 《必ずお読みください！！》

市では、ご自身で蜂の巣を駆除される方に、無料で蜂用防護服の貸し出しを行っております。駆除を行う際、防護服の下には万一に備え厚手の服を着用し、ハチ用駆除スプレーなどの薬剤を使用するなど、安全面には十分お気を付け下さい。

### 蜂の特性について

蜂は、毎年初夏から夏にかけて巣作りが活発になり、住宅地でも数多く見うけられます。市内に生息する蜂は、主にミツバチ、アシナガバチ、スズメバチの3種類で、それぞれ特性に違いがあり、巣の形状からおおよその種類がわかります。

いずれの蜂も、住宅街にも巣を作ることがあります。

### スズメバチ

体長3cmを超える大きな蜂で、攻撃性・威嚇性が高く、毒性も強いことから、刺されると非常に危険です。対応は、大きさに関わらず専門の業者に依頼することをお勧めします。

### アシナガバチ

体長2～3cm程度の大きさで、攻撃性・威嚇性もあります。スズメバチほど狂暴ではありませんが十分な注意が必要です。

### ミツバチ

体長1～2cm程度の大きさで、他の蜂に比べ攻撃性は弱いですが、巣作りの際には適した場所が見つかるまで、数百匹～数万匹で群がり、移動しながら飛来しています。この状態の蜂は、一般的におとなしいとされていますので、大群がいるからといって、むやみに刺激を与えず様子を見守ってください。また、お子さまには、興味本位で刺激を与えないよう注意してください。

### 蜂の巣駆除についての注意点

駆除は、ハチが巣に戻っている日没後の2時間経過以降に行ってください。

作業手順は、懐中電灯等で照らす場合、蜂を刺激しないよう直接巣を照らさず、光源の外周部の暗いところか、非常用の赤い電灯を使用してください。また、音に対しても非常に敏感なため、作業中は無駄な音をたてないように気を付けてください。

蜂の巣の撤去は危険を伴います（特にスズメバチ）。駆除を行う専門の業者に、依頼（費用は依頼者負担）する事もお考えください。

### 天井・床下・羽目内の蜂の巣駆除の場合

1. 隙間が出来ないように、ガムテープなどで目張りする。
2. くん煙剤やスプレーを散布し、蜂が弱ってから作業する。

### ＜作業の前に＞

1. 防護服を点検する。
2. 用具を確認する。
3. 蜂の種類、巣の位置、大きさ等を確認する。
4. 蜂を刺激しないよう注意する。
5. 周辺の状態を把握し、危険物等の有無を確認する。
6. 駆除方法、使用薬剤等を検討する。
7. 家人を遠ざけ、戸締まりを確認し、周辺住民にも注意を促す。
8. 周辺の状態を見張る者を置く。

### ＜作業手順＞

1. 慎重に巣に近づき巣と巣の周りにはいる蜂に薬剤を散布する。  
スズメバチの場合巣の入り口から薬剤を散布する。
2. 同時に丈夫な袋で巣を包む。
3. 蜂が活動しなくなったのを確認後、巣を除去する。
4. 巣のあった付近に、再度、薬剤を散布する。
5. 付近の住民にしばらくの間近づかないように注意を促す。
6. 駆除した巣を入れた袋に薬剤を散布し、口をよく閉めた上で1～2日置いておく。
7. 周りに落ちている巣の破片、蜂の死骸をすべて回収する。
8. 総合環境センターに直接持ち込みして巣を処理する。
9. 防護服、用具等を点検し返却する。（借用の翌日返却）

### ＜薬剤＞

殺虫乳剤、殺虫油剤、スプレー式殺虫剤（ピレスロイド系殺虫剤、アブ、ハチ、スズメバチ用が有効）を屋内で使用する場合は、スプレーのガスに引火しないよう火元に気をつけ、換気をよくして使用すること。

### ＜周辺住民への注意事項＞

1. 蜂の巣を除去することを知らせる。
2. 窓を閉める。
3. 洗濯物を取り入れる。
4. 屋外で作業する場合、作業する人以外は屋外へ出ない。
5. 戻りバチがいるため、巣のあった付近にしばらくの間近寄らないようにする。
6. 道路に面した建物の巣を除去するときは、人員を配置し、通行人及び通行車両に注意、指示する。